

2024年6月2日 主日礼拝 聖霊降臨節 第3主日 聖餐礼拝

説教題：「求めなさい、門をたたきなさい」

聖書箇所：ルカによる福音書11章1 - 13節 (127頁)

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 48 交読詩編：85編1 - 8節 (93頁)

讚美歌：83/56 (主よ、いのちのパンをさき) /342 (神の霊よ、今くだり) /81 (主の食卓を囲み) /27

「今週の聖句」〔だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。〕

(ルカ伝11：10)

「牧師室の窓」 「紫陽花の 雨待つ若葉 凜々しかり 如何なる花を 創作するや」

「ゴミ出しの 朝の会話の その横を ランドセルの子ら 元気に通る」

(1)皆様おはようございます。本日は聖霊降臨節第3主日礼拝、ルカによる福音書の第11章の始めの箇所を読んで参ります。小見出しには「祈るときには」と書かれている箇所です。始めに、今日のこの11章がどのような箇所であるのかを確認してみましょう。

ガリラヤ地方で成長されましたイエス様は伝道を始められました。伝道とは、神の国の福音を告げ知らせることです(ルカ伝4章43節)。何故、イエス様は「神の国の福音を告げ知らせる」ことになったのかと言いますと、1つには、イエス様が神の子として「父なる神から与えられた使命を果たす役割を担っていた」からです。2つには、「人間が活着している時代が神の国の福音を必要としていた」からです。「人間が活着している時代」とは私たちが活着しているこの時代も含まれます。

私たちの多くの人々は20世紀に生まれ、いま、21世紀を活着て、小さな子供たちは22世紀に活着ることになるでしょう。併し、多くの問題が、解決するには知恵を絞らなければならない問題があります。科学の力や人間の協力をもってしても解決が困難な問題があります。神の国の福音が現代の人々にも社会にも、これからの人々や社会にも必要です。キリスト教の存在事由がここにあります。聖書は奇跡物語で馬鹿馬鹿しいとの批判や、宗教に対する批判がマスコミからなされています。この日本では、マスコミがいつの間にか膨大な権力者になっています。このような時代にこそキリストの教会は聖書の御言葉を語り、福音を語り継いで行かねばなりません。

(2)次に、先程申し上げました「神から与えられた使命」とは何でありましょうか。その「使命」は、私たちが旧約聖書と呼んでいる書物の中に隠されているのです。私たちの南板橋教会で毎月1回行なわれている「交わり礼拝」で旧約聖書の創世記第1章から1章毎に読んでいます。既に、271章(約25年間)に至っています。旧約聖書を読むと言うことは、書かれている内容を読むと言うことのみならず、只今申し上げました様に、イエス・キリストが「神から与えられた使命」とは何かということ掘り当てることにあります。つまり、文字に書かれている表面的な文言のみならず、文字と文字、或いは、行間に隠れている意味を読み取ることにあります。私が時々申し上げている「暗号解説」であります。暗号解説をするためには、分かったことや分からないことに「一喜一憂」することは大切ですが、「一喜一憂」せずも大切です。暗号解説に慣れてきますと、私たちの日常生活にも役立ちます。家族との会話、職場や趣味仲間との会話で、相手の言葉を受け止める心の余裕が出てきます。聖書を読むことが日常生活で心に余裕をもたらす効果があるのです。

(3)話しを元に戻しまして、イエス様はお一人での伝道を始められて間もなく、弟子を見つけて伝道のチームを組まれます。ペトロやアンデレを始めとして12人を選びました。いずれの弟子たちも何らかの職業についていた人達でしたが、イエス様の御言葉を身近に聞き、イエス様の様子を見ているうちに、弟子として成長していく様子がルカ福音書に記されています。ルカ伝の8章には

「種を蒔く人」の譬え話が書かれています。「善い心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たち」と書かれています。「善い心で御言葉を聞き、よく守り」とはどのようなことでありましょうか。「忍耐して実を結ぶ」とはどのようなことでありましょうか。弟子たちは一つひとつを体験し、学んでゆくのです。

(4)そして、愈々、ガリラヤを離れてエルサレムへの伝道を開始しました。すると、弟子たちはイエス様からの具体的な訓練を受ける様になりました。その第1は、ルカ伝10章20節です。弟子たちが各地での伝道から帰って来ての「伝道報告会」でイエス様は弟子たちに対して、伝道の成果を喜んではいけません、「あなたがたの名前が天に書き記されていることを喜びなさい(ルカ10:20)」と書かれています。この世の中での栄誉や賞賛ではなく、天の国の一員であるに人生の価値を求めなさいと言っておられるのです。第2番目には、ルカ伝10章に書かれている「善きサマリヤ人」の譬え話に「大切なこと」が書かれています。第3番目には、同じくルカ伝10章に書かれている「マルタとマリア」の場面では「必要なことはただ一つ」と書かれています。先週の礼拝で申し上げました様に、これらの3項目はこの人間社会で生きて行く上での「最も重要なこと」として並んで書かれています。ルカ福音書を書いた人はこれらの3つのことをただ並べて書いたのではなく、イエス様が弟子たちの訓練として(従って、私たちの訓練として)、実地訓練として記録したものと考えられます。

(5)そのことが今日の聖書箇所にも受け継がれています。今日の聖書箇所のポイントは8節と13節であると考えられます。8節・13節を見てみましょう。〔(11:8)しかし、言うておく。その人は、友達だからということでは起きて何か与えるようなことはなくても、しつように頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。〕続いて13節〔(11:13)…このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。〕この聖書箇所は必要なものを得るために懸命になって行動することの大切さを示しています。背景としては初代教会が抱えていた多くの困難にも拘わらず、困難を克服してきた推進力は祈りの力にあることを語っているものと推測されます。この「祈りの力」を弟子たちは今日の聖書箇所である11章1節～4節で教えられたことを記しています。11章1節を見てみましょう。〔(11:1)イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と言った。〕ここには「イエスはある所で祈っておられた」と書かれています。この11章に至るまでは、イエス様は弟子たちがいない場所でお一人で祈っておられました。では、弟子たちはどの様にして祈っていたのでしょうか。弟子たちは祈りの仕方が分かっていたのでしょうか、個人個人異なる祈りになっていたのだと推測されます。これからの伝道の為にも、みんなが心を併せて祈る祈り、つまり「主の祈り」を教えていただくことをイエス様に願ったのです。ここでは、伝道者訓練として(つまり、信徒訓練の方法として)主の祈りが示されました。私たちが祈る主の祈りの原型がマタイによる福音書第6章に書かれています。きょうのルカ伝の記述とは異なる経緯(いきさつ)です。なかなか、共観福音書を読み比べることは興味深いですね。

(6)このルカ伝の主の祈りは3節に書かれている「わたしたちに必要な糧を毎日与えてください」、つまり食べ物に焦点を合わせています。そうすると、「真夜中に」食べ物(パンを)貸して欲しいと言う友人が頼みに来た時、イエス様は譬え話を展開します。5節、6節です。〔(11:5)また、弟子たちに言われた。「あなたがたのうちのだれかに友達がいる、真夜中にその人のところに行き、次のように言ったとしよう。『友よ、パンを三つ貸してください。』/(11:6)旅行中の友達がわたしのところに立ち寄ったが、何も出すものがないのです。』/(11:7)すると、その人は家の中から答えるにちがいない。『面倒をかけないでください。もう戸は閉めたし、子供たちはわたしの

そばで寝ています。起きてあなたに何かをあげるわけにはいきません。』) ここには「パン3つ」、  
「旅行中の友達が来て」に対して、「面倒をかけないでください、戸は閉めた、子供たちは寝て  
いる」と具体的に拒絶理由を示していますが、一体この場面はどの様になるのだろうか、イエ  
ス様は弟子たちに練習問題を出しているのです。8節を見てみましょう。〔(11:8)しかし、言っ  
ておく。その人は、友達だからということでは起きて何か与えるようなことはなくても、しつよう  
に頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。〕この8節には「しつように頼めば」  
書かれています。「執拗に頼む」という言葉は日本では殆んど使われなくなってしまいました。  
代わりに定着しているのが「頑張らなくてもよい」という言葉です。日本人は概して、物事を右か  
左かに、赤か白かに、勝か負けに色分けしがりますが、9節10節が言っていることは最後まで  
希望を繋ぎなさいという言葉です。私が学生時代にゼミナールの指導教授から教えられた言葉  
に、アメリカの牧師エマソンの“**Hitch your wagon to a star.**”(希望をあの星につなげ)がありま  
す。国立大学の経済学の教授(クリスチャンではありません)がゼミナールの時間にアメリカの  
キリスト教の牧師が書いた文章を講釈するのです。その先生に私はたくさんのお話を教えていた  
だきました。私は今でも毎年その教授のお墓の前に立って、世の中の動きを報告すると共に、感  
謝しています。

(7)最後に、今日の聖書箇所に関連して加えておきたいことがあります。それはアメリカの公民権  
運動・黒人解放運動の指導者であったMartin Luther King 牧師「私には夢がある(I have a dream.)  
の言葉が著名です」の説教集の中に「真夜中に戸を叩く」という説教があります。まさに本日の  
聖書箇所に関連した説教です。その中に次のように書かれています。「この譬え話と同じよう  
に、今日(こんにち)の我々の世界においても、真夜中の深い暗闇は、戸を叩く音によって打ち破  
られる」、「旅人が求めている3切れのパンは信仰のパンである」、「すべてが絶望に見える瞬間  
においても人々は喘ぎながら希望のパンを求めている」、「教会が持っている希望のメッセー  
ジは、夜明けは必ず来るというメッセージである」キング牧師は暗殺されましたが、彼の誕生日を  
記念して1月第3月曜日がアメリカ合衆国での祝日になっています。日本の教会は今日の聖書箇所  
の福音を声を大にして語って行く使命があると思います。

・・・お祈りいたします。